

飼料用米給与で肥育成績を維持しながら 和牛の飼料費を削減

飼料用米は安価に供給されている濃厚飼料原料で、静岡県でも増産が着実に進んでいますが、肉牛農家での利用が進んでいません。それは、静岡県は霜降りの多い高級牛肉生産を特色としており、飼料用米給与の肉質への悪影響が懸念されているからです。また、県内で生産される飼料用米は、圃場乾燥後に粃のまま 500kg のフレキシブルコンテナバッグ（フレコン）で保管・流通されており、使い切りに数日を要する小規模な肉牛農家では、給与途中での飼料用米の品質低下が懸念されているからです。そこで、静岡県畜産技術研究所では、和牛への飼料用米給与効果等を実証展示することで、肉牛農家における飼料用米の利用促進を図っています。

☆ 技術の概要

1. フレコン開封・再密封時の混入酸素による飼料用米の酸化防止は、乾燥剤同封、または掃除機等を使用した脱気処理で短期間の抑制は可能でしたが、長期保存ではカビ等が発生しました。
2. フレコンでの飼料用米の保管時に、原物量の 0.5%相当量のアンモニアを添加すると真菌・酵母の発生の抑制ができました。
3. 黒毛和種に对照区と同じ栄養充足量の粗粉碎(粃)米を給与すると、血中コレステロールと体重増加率が低下しましたが、飼料用米の 1 割増量、または再粉碎処理で粒径を小さく（粒径 2 mm 程度）して給与すると、对照区と同等の発育と栄養状態が認められました。
4. 飼料用米給与で格付成績等が低下することは有りませんでした。



図1 アンモニア添加による真菌制御



図2 粉碎後2mmメッシュ通過率 40%



図3 給与試験状況

☆活用面での留意点

1. 飼料用米給与により、飼料費を削減し、牛肉生産コストを下げるのが可能です。ただし、粗粉碎飼料米の場合は、粒径 2 mm 程度への再粉碎、そのままの利用では 1 割程度の増給が必要です。
2. 真菌・酵母等による飼料米変敗の防止にはアンモニア処理が著効でしたが、アンモニアガス添加は法規制やコスト課題があり、尿素利用型のアンモニア処理の実施を予定しています。
3. 詳しくは、静岡県畜産技術研究所肉牛科 塩谷治彦 (TEL 0544-52-0146) にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)